

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(一)借宿小諸線		
事業毎の通番		1	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	四ツ谷(よつや)	
事業概要	事業目的	当路線は旧国道141号であり、小諸市と佐久地域を結ぶ重要な道路である。1日を通して交通量が多く、特に朝夕の通勤・通学時間帯は非常に多い。東中学校生徒の大半の通学路にもなっており、自転車・歩行者も非常に多い。(自転車通学生徒:161名)しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしており、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業で歩行者の安全確保のため歩道を設置することが急務である。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	小諸市都市計画マスタープラン 小諸市立地適正化計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策1-3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	小諸東中学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:12,608台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:161台・人/12h(自転車通学生徒)					
	着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年)	費用対効果	—		国庫	その他
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=650m W=6.0(14.0)m			800,000	440,000	324,000 36,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:12,608台/日(H27センサス) ○現況自転車歩行者交通量:161台・人/12h(東中学校自転車通学生徒数) ○ピーク時自転車交通量:87台/h(7:00~8:00)(R2実測値)				評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合:小諸市都市計画マスタープラン 小諸市立地適正化計画 ○通学路等の指定:小諸東小・中学校				評価	A
効率性		○事業期間:4年間(R4~R7)				評価	A
緊急性		○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 8件(H28~R2) ○現況の歩道幅員:1.5m				評価	B
計画熟度		○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:再評価7-1「早期事業完了要望」				評価	A
		所管課の意見	小学生の通学路であり、佐久市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要がある、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図			状況写真										
	標準横断面図	<p>計画幅員 W=14.00m</p> <table border="1"> <tr> <td>自転車歩道</td> <td>2.50</td> <td>1.50</td> <td>車道</td> <td>6.00</td> <td>自転車歩道</td> <td>1.50</td> <td>2.50</td> </tr> </table>		自転車歩道	2.50	1.50	車道	6.00	自転車歩道	1.50	2.50	平面図		
	自転車歩道	2.50	1.50	車道	6.00	自転車歩道	1.50	2.50						
	事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、小諸市街と佐久市街地を結ぶ路線であり、交通量が非常に多い。当該箇所は、小諸東中学校の通学路であり、朝夕の歩行者・自転車が非常に多く、事故も度々発生しているため、自転車道及び歩道の整備を行うものである。											
		②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H29/H30 県会議員現地調査時に学校関係者・区長・PTAらが合わせて要望活動											
		③事業説明等の経緯	H29/H30 通学路合点検実施 H29/H30 県会議員現地調査実施 R1 危機管理建設委員会市陳情等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。											
		④他事業・プロジェクトとの整合、関連	小諸市都市計画マスタープラン 小諸市立地適正化計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策1-3)」											
		⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。											
		⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。											
		⑦その他	特になし											
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。			事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 18' 47.00" 東経:E 138° 26' 33.00"									

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等事業		路河川名等	(国)142号	
事業毎の通番		2	市町村名	小県郡長和町	箇所名(ふりがな)	四泊(よどまり)
事業概要	事業目的	当該路線は中山道で有り、近年、観光で中山道を散策する人が増加しており、団体を歩行している。また、一部区間がバス通学をする生徒の通学路となっている。当該路線は路肩が狭い上に大型車の通行量が非常に多く、新和田トンネル無料化によりさらなる交通量が見込まれることから、歩行者の安心安全を図るため歩道設置したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	長門小学校通学者 中山道散策者 他、自動車交通量:9,078台/日(H27センサス)、11,316台/日(R2.10調査) 交通量1人/12h(H27センサス)、3人/日(R2.10調査)				
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2030年度(令和11年度)	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=900.0m、W=2.5m(片側)			600,000	330,000 243,000 27,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、交通事故の減少が期待される。				
	間接的効果(定量的・定性的)	中山道散策者の増による地域の活性化 バス路線の整備				
評価の視点	必要性	○計画歩行者交通量 : 3人/日 ○目的地からの距離 : バス通学者用(長門小学校)のバス停あり			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン ○通学路等の指定:長門小学校			評価	A
	効率性	○事業期間:8年間(R4~R11)			評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 人or自転車×自動車事故発生 なし 車両相互 10数件 今後、新和田トンネルが無料化になれば交通量も増加し、事故のリスクも増える。 ○歩道整備 : 通学路対策 歩道なし			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(R3.6事業説明会を開催予定) ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:再評価7-1「早期事業完了要望」			評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

平面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	一般国道142号は上田・佐久地域と諏訪地域を結ぶ主要道路かつ一次緊急輸送路である。当該箇所は交通量が多く、大型車の通行も多いものの、路肩幅が狭小であり、歩道の無い区間である。特に当該区間は一部通学路にもなっており、児童の通行にあたって危険な状況にあるため、早期対策が望まれている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	児童の安全な通学路を確保するため地元自治会から要望を受けており、近年、中山道を通行する人が多くなっていることもあり、歩道設置の要望があがっている。
③事業説明等の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.6 地元自治会より要望書提出 → 意見交換 ・R1.10 期成同盟会より要望書提出 → 意見交換 ・R3.6 事業説明会 ・R3.9 通学路合同点検
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 長和町通学路安全プログラム
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

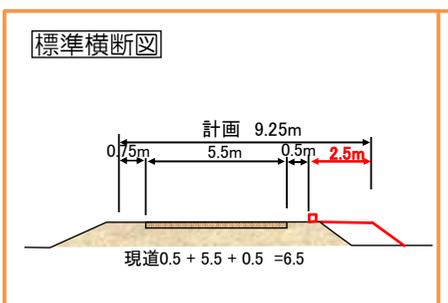
事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 15' 20" 7
東経:E 36° 14' 31" 3

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等		(一)新田松本線			
事業毎の通番		3	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)		下竹田～臨空工業団地		
事業概要	事業目的	当該箇所は、山形村、朝日村と松本市街地を結ぶ主要道路であり、沿道には臨空工業団地や大型商業施設があり、自動車交通が多く、大型車の割合も多い。松本市側は一部歩道が中抜けとなっており、山形村側は通学路となっているが、歩道がほぼ未整備であり、通学児童をはじめとする歩行者が危険にさらされている状況であるため、歩道整備による歩行者の安全確保を行う							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」							
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	山形小学校 通学者 他 現況自動車交通量:台/日、現況交通量(歩行者・自転車)人/日							
	着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年)	費用対効果	—		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道工 L=3600m、W=2.5m			300,000	165,000		121,500	13,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される。車両交通の円滑化が期待される。							
	間接的効果(定量的・定性的)	バス路線 通行車両の交通事故抑制							
評価の視点	必要性	○現況歩行車通行量：154人/日(通学児童) ○目的地からの距離：山形小学校・バス停					評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン ○通学路等の指定：山形小学校通学路合同点検箇所					評価	A	
	効率性	○事業期間：5年間					評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数：人○×自動車事故発生1件(R2) ○現況の歩道幅員：歩道なし					評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：周知していない ○地域の取り組み：地元町会、小学校PTA要望あり ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価7-1「早期事業完了要望」					評価	A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、山形村及び松本市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保するため、事業着手が妥当であると判断する。					採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

事業概要説明図表	【位置図、平面図】	 	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	 	
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は、山形村、朝日村と松本市街地を結ぶ主要道路であり、沿道には臨空工業団地や大型商業施設があり、自動車交通が多く、大型車の割合も多い。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、小学校の通学路になっていることから、歩行者の保護が求められている。このため、恒常的な渋滞の解消や、歩行者、自転車利用者の安全な歩行空間の確保を要望されている。	
	③事業説明等の経緯	R3 通学路合同点検実施 計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 山形村・松本市通学路安全プログラム	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦その他		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 137° 88' 85" 02 東経: E 36° 18' 19" 28

(様式1-2)新規評価シート

部 課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等		(主)松本塩尻線		
事業毎の通番		4	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)		内田(うちだ)	
事業概要	事業目的	松本市と塩尻市を結ぶ幹線道路である当路線は、通勤のほか、物流を支える重要な路線となっており、自動車交通量が多い。沿道には内田運動広場や養護学校があるほか、明善小学校、明善中学校の通学エリアとなっているが、当該区間は歩道未整備であり、通学児童をはじめとする歩行者の安全確保が急務となっている。そのため、本事業により、安全で円滑な交通を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	明善小学校、明善中学校、県寿台養護学校 自動車交通量(H27) 6,562台/日(うち大型車443台/日)						
	着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年)	費用対効果	—	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=650m、W=2.5m			150,000	82,500	60,750	6,750
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通学児童をはじめとする歩行者の安全確保、交通事故の減少 自動車交通の円滑化						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量：60~80人/日(明善小学校、明善中学校 通学者数) ○目的地までの距離：明善小学校400m					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン ○通学路等の指定：明善小学校					評価	A
	効率性	○事業期間：5年間					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数：歩行者×自動車事故発生 1件発生(H29) ○歩道整備：通学路対策					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：未周知 ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：今後調整(地元町会、PTAからの要望箇所) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価7-1「早期事業完了要望」					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、松本市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

位置図

平面図

計画横断面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	松本地域の東線を走る本路線は、通勤、物流に利用され、信号交差点が比較的小さいことから走行速度も高い。沿道には県寿台養護学校や内田運動広場があるが、歩道が整備されておらず、加えて、牛伏寺や明善小、中学校を結ぶ市道交差点や内田運動広場横交差点は変則形状の交差点となっており、歩道整備や交差点形状の見直しの機運が高まっている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	沿道に県寿台養護学校や内田運動広場があり、また、明善小、中学校の通学エリアとなっていることから、歩道整備、交差点改良(松本市実施予定)による環境の改善要望が出された。
③事業説明等の経緯	H30.3月 六道交差点 現地立会(地元区役員、松本市、警察、松本建設事務所) H30.4月 六道交差点 通学路合同点検 R3.9月 通学路合同点検等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 松本市通学路安全プログラム
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 36° 10' 15.43"

東経: E 137° 59' 49.01"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

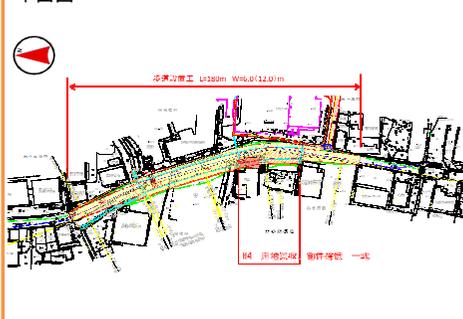
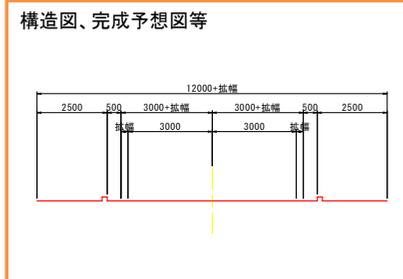
事業名	交通安全施設等整備事業			路河川名等	(一)小倉梓橋田沢(停線)
事業毎の通番	5	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	黒沢川橋(くろさわがわばし)
事業目的	当路線は、主要地方道塩尻鍋割穂高線からJR大系線梓橋駅を結ぶ道路である。安曇野市都市計画マスタープランにおいて東西の主要な移動軸に位置付けられており、また、安曇野市道路整備推進計画の広域交流幹線道路に位置付けられている。近隣には、小学校及び中学校があり通学路に指定され歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。当事業は歩行者の安全確保のための歩道を設置するもの。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)	事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画 しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	三郷小学校、三郷中学校 通学者、安曇野市街地方面及び松本市方面 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:2,706台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:178人/12h(H27センサス)				
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	-	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=160m うち歩道橋 L=20m			250,000	137,500 - 101,250 11,250
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故の減少が期待される。 歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される。			
	間接的効果(定量的・定性的)				
必要性	○現況歩行者交通量 : 178人/12h ○目的地からの距離 : 350m(スクールバス停留所)				評価 A
重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画 ○通学路等の指定 : 三郷小学校及び三郷中学校の通学路に指定されている				評価 A
効率性	○事業期間:4年間(R3~R6)				評価 A
緊急性	○近年の交通事故件数 : 事故なし ○現況の歩道幅員 : 歩道なし				評価 B
計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(安曇野市及び地元区から要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価7-2-5 地元調整)				評価 B
所管課の意見	小学生の通学路であり、安曇野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保するため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手

位置図			
事業概要説明図表			
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は主要地方道塩尻鍋割穂高線からJR大系線梓橋駅を結ぶ、安曇野市道路整備推進計画の広域交流幹線道路に位置付けられた道路である。本事業区間は、三郷小学校及び三郷中学校の通学路に指定されており、歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小中学校の通学路となっていることから、歩行者の保護が求められている。このため、地元区から安全な歩行空間の確保を毎年要望されている。	
	③事業説明等の経緯	R元年に地元区長及び役員等へ現地立会い及び事業説明を実施。R3通学路合同点検時に経過や予定を説明実施。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市都市計画マスタープランにおいて、東西の主要な移動軸に位置付けられている。安曇野市道路整備推進計画において、広域交流幹線道路に位置付けられている。安曇野市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。	
	⑦その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 51' 56" 東経:E 36° 15' 24"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等		(一)三才大豆島中御所線		
事業毎の通番		6	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)		朝陽小学校前(あさひしょうがっこうまえ)	
事業概要	事業目的	本路線は、長野市街地の東側に位置し、長野市北部と南部を結ぶ幹線道路であり、長野東バイパスと交差する路線であるため東バイパス供用時には一層の交通量の増加が見込まれる。朝夕の通勤時間を中心に交通量が多く、長野市朝陽支所等の施設が集積し、朝陽小学校の通学路ともなっているため歩行者も多い。しかしながら、当該箇所は歩道が未整備であり、小学生をはじめ多くの歩行者が危険にさらされているため、早急な整備を行うことにより、歩行者の安全確保を図りたい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等		交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	朝陽小学校通学路(児童数671名)、現況交通量:6,024台/日(H27全国道路・街路交通情勢調査)エムウェブに通じる道路:観光利用者数39万人						
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	—		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(両側) L=250m、W=6.0(12.0)m			250,000	137,500		101,250	11,250
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される						
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
評価の視点	必要性	○現況交通量:105人/日 ○目的地までの距離:朝陽小学校30m					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路等の指定:朝陽小学校の通学路に指定されている					評価	A
	効率性	○事業期間:4年間					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人×自動車事故発生1件 ○現況の歩道幅員:なし					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者、地権者を中心に周知 ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:再評価7-1「早期事業完了要望」					評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。					採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	<p>位置図</p> 	<p>平面図</p> 
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	<p>朝の通学状況</p> 	<p>構造図、完成予想図等</p> 
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(一)三才大豆島中御所線は、長野市街地の東側に位置し、長野市北部と南部を結ぶ幹線道路であり、長野東バイパスと交差する路線であるため東バイパス供用時には一層の交通量の増加が見込まれる。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、朝夕の通勤時間を中心に交通量が多く、長野市朝陽支所等の施設が集積し、朝陽小学校の通学路ともなっているため歩行者も多い。しかしながら、当該箇所は歩道が未整備であり、小学生をはじめ多くの歩行者が危険にさらされているため、早急な整備が必要である。
	③事業説明等の経緯	長野市北長池地区の役員及び関係機関との朝陽地区道路整備勉強会を組織し、意見交換会を過去10回実施。当該区間の事業実施について賛同を得ている。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」長野市通学路安全プログラム
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
	⑦その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 45' 13" 東経:E 138° 16' 04"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等		(主)長野菅平線		
事業毎の通番		7	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)		南俣(みなみまた)	
事業概要	事業目的	主要地方道長野菅平線は、長野市を起点として上田市に至る主要な幹線道路であり、菅平高原へのアクセス道路としても重要な路線として利用されています。当該区間は、南部小学校の通学路となっているが、歩道がなく通学する児童が車道を歩くため危険な箇所となっている。本事業で歩道設置を行い、歩行者の安全を確保したい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律			
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	南部小学校 通学者 他 現況自動車交通量: 6,117台/12h、現況交通量(歩行者)256人/12h(推定)、現況交通量(自転車)739人/12h(推定)						
	着手年度	2022年度(令和4年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	-		国庫	その他	県債
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=50m			100,000	55,000		40,500	4,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される						
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制						
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量: 6,117台/12h ○現況交通量(歩行者)256人/12h(推定) ○現況交通量(自転車)739人/12h(推定) ○目的地までの距離: 750m(南部小学校)					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: しあわせ信州創造プラン2.0、信州みちビジョン ○通学路等の指定: 南部小学校の通学路に指定されている					評価	A
	効率性	○事業期間: 3年間(令和4年~令和6年)					評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数: 人×自動車事故発生 2件 ○現況の歩道幅員: なし					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者、地権者を中心に周知 ○地域の取り組み: 協力的である(自治会による地権者交渉) ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 再評価7-1「早期事業完了要望」					評価	A
	所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○		A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	<p>位置図</p>	<p>平面図</p>	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	<p>状況写真</p>	<p>構造図、完成予想図等</p>	
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該箇所は南部小学校の通学路となっているが、約50m区間の歩道未設置区間であり、通学時は児童が歩道のある反対側へ交通量の多い県道を渡って通学しており、非常に危険な状態にある。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、地元からの歩道設置の要望が非常に強い。また、自治会において地権者の了承を得た経緯あり。	
	③事業説明等の経緯	R2. 3通学路合同点検時に経過や事業計画等を説明 R03.06事業説明実施	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 長野市通学路安全プログラム	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 38' 16" 東経: E 138° 12' 28"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(-)曾根藤/木線		
事業毎の通番		8	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)	小境上(こざかいうえ)	
事業概要	事業目的	当路線は、飯山市曾根地区から藤ノ木地区を結ぶ生活道路であり、また、戸狩スキー場や戸狩温泉、なべくら高原等へ観光道路にもなっており、北陸新幹線飯山駅開業後、交通量が増え、大型車混入も多い。しかし、沿線には戸狩小学校があるが、当該区間は歩道が未整備であり、特に冬期は堆雪により幅員の減少もあって歩行者は危険な状態であることから、通学路の合同点検においても対策箇所となっている。そのため、歩行者の安全確保のため、歩道整備を行って歩行者の安全を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	戸狩小学校、城北中学校 通学者、JR戸狩野沢温泉駅 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:1,871台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:10人/12h(H27センサス)					
	着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	-	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工(片側) L=560m W=2.5m			300,000	165,000	- - 135,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:46人/日(行政区調べ) ○目的地からの距離:1000m以上(戸狩小学校2.0km)				評価 B	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:飯山市過疎地域自立促進計画、飯山市通学路交通安全プログラム ○通学路等の指定:戸狩小学校				評価 A	
	効率性	○事業期間:6年間(R4~R8)				評価 A	
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件(H30) ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価 A	
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取り組みがある(太田南部道路改良促進協議会) ○地域の合意形成:合意形成が図られている(地元関係者の意向確認済)				評価 A	
		○再評価・事後評価からのフィードバック:同種事業の結果を参考(事後評価7-6-5地元調整)					
所管課の意見	小学生の通学路であり、飯山市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

位置図

状況写真

平面図

事業概要説明図表	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は、戸狩小学校、城北中学校の通学路であり、JR戸狩野沢温泉駅への歩行者も多いが、歩道がなく危険な状況。 北陸新幹線飯山駅が平成26年12月に開業し、通行車両の増大。 計画区間で平成30年に事故が1件発生している。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	飯山市太田南部道路改良促進協議会から所長要望が出されている(R2.1.21、R3.1.25)。 平成27年3月交通安全プログラム策定。
	③事業説明等の経緯	協議会要望時に意見交換 H26~通学路合同点検 → R3 通学路合同点検実施 等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 長野市通学路安全プログラム
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
	⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

事業化にあたり、地元の意向を調整して計画を立案した。

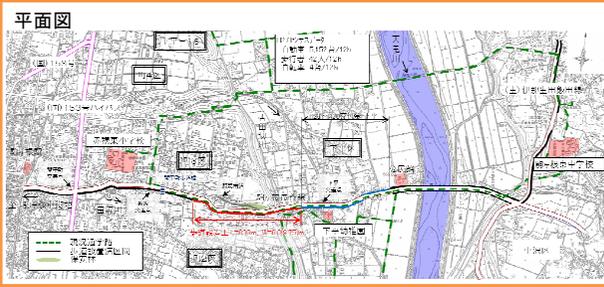
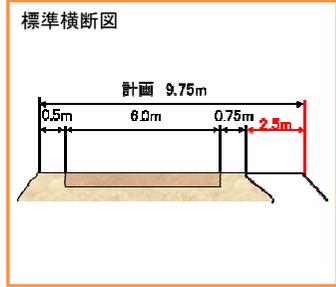
事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 54' 45"
東経:E 138° 22' 23"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)駒ヶ根長谷線	
事業毎の通番		9	市町村名	駒ヶ根市	箇所名(ふりがな)	田沢(たざわ)
事業概要	事業目的	当路線は駒ヶ根市の中心市街地を通り、南北に流れる(一)天竜川の東西地域を結ぶ重要な道路である。1日を通して交通量が多く、大型車の通行も多い。小学校の通学路や幼稚園児のおさんぽコースにもなっており、歩行者の保護が求められている。しかし当区間は歩道が狭く、見通しの良い坂道で車のスピードが出やすいため、歩行者の安全確保について、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業で歩道を設置し、歩行者の安全を確保することが急務である。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	駒ヶ根市都市計画区域マスタープラン 駒ヶ根市通学路安全プログラム				
	保安対象・範囲 受益対象・範囲	赤穂東小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:5,152台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:46台・人/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2026年度(R8)	費用対効果	-	国庫	その他	県債
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=830m W=2.5m			440,000	242,000	198,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:46台・人/12h ○目的地からの距離:赤穂東小学校L=650m				評価 B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路の指定:通学路安全プログラム(R3合同点検) 赤穂東小学校				評価 A
	効率性	○事業期間4年(R4~R8)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 3件以上 ○現況の歩道幅員:1.0~1.5m				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:事業目的について合意形成が図られている				評価 A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				
所管課の意見	小学生の通学路であり、駒ヶ根市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が狭小で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況 ○	総合評価 B
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	<p>位置図</p> 	<p>現況写真</p> 	
事業周辺環境	【整備の必要性がわかる状況写真等】		
	<p>平面図</p> 	<p>標準横断面</p> 	
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は駒ヶ根市の中心市街地を通り、南北に流れる(一)天竜川の東西地域を結ぶ重要な道路である。1日を通して交通量が多く、大型車の通行も多い。小学校の通学路や幼稚園児のおさんぽコースにもなっているが、見通しの良い坂道で車のスピードが出やすいため、歩行者の保護が求められている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	R3 駒ヶ根長谷線改修促進期生同盟会より要望 R3 区長・PTAらが駒ヶ根市へ要望活動。要望を受けた駒ヶ根市が県に要望活動	
	③ 事業説明等の経緯	R3 通学路合同点検実施 R3 建設部長要望等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等を説明を実施。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	駒ヶ根市都市計画区域マスタープラン 駒ヶ根市通学路安全プログラム しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」	
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。	
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。		
⑦ その他	特になし		
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 44' 04.43" 東経:E 137° 57' 00.66"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)長野大町線		
事業毎の通番		10	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	中条平(なかじょうたいら)	
事業概要	事業目的	主要地方道長野大町線は、長野市を起点として大町市に至る主要な幹線道路であり、長野市内～大町、白馬方面へのアクセス道路としても重要な路線として利用されている。当該区間は、一部歩道がないために、中条小学校へ通学する児童が交通量の多い道路を通学しており、危険な箇所となっている。本事業で歩道設置を行い、歩行者の安全を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	中条小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:6,305台/日(H27センサス)、現況歩行者交通量:39人/24h、現況自転車交通量:11台/24h					
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-	国庫	其他	県債
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=160m W=2.0m			90,000	49,500	40,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
		間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
	評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:39人・人/日(27センサス)(中条小学校通学路) ○自転車交通量:11台/日(H27センサス) ○目的地からの距離:中条小学校600m				評価
				B			
重要性		○関連計画、重点施策との整合:しあわせ信州創造プラン2.0 4-4、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路等の指定:中条小学校				評価	
						A	
効率性		○事業期間4年(R4~R7)				評価	
						A	
緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件(H28~R2) ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価		
					A		
計画熟度	○事業情報の共有:関係者以外にも周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている				評価		
	○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				A		
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価		
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	平面図
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	現状写真	標準横断面
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、長野市街と白馬大町地域を結ぶ路線であり、白馬長野有料道路を迂回する大型車を中心に交通量が非常に多い。当該箇所は、中条小学校の通学路であり、朝夕の通学時には大型車とかなり近接するため非常に危険である。このため、安全な歩道の整備を行うものである。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	H28 地元区による地権者への同意署名を実施のうえ、要望活動 R03 県議員現地調査時に学校関係者・区長・PTAらが合わせて要望活動
	③ 事業説明等の経緯	R3 通学路合同点検実施 R3 県議員現地調査実施 R3 地元区による要望書の提出等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 長野市通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦ その他	特になし	
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 36' 44.9" 東経:E 138° 02' 16.5"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(主)信濃信州新線	
事業毎の通番		11	市町村名	小川村	箇所名(ふりがな)	鶴牧田団地(つるまきだんち)
事業概要	事業目的	(主)信濃信州新線は信濃町から信州新町へ至る重要な交通の要衝である。また(国)406号～(主)長野大町線を結ぶ重要な路線である。当該箇所は鶴牧田団地から小川小学校への通学路となっているが、勾配が急なうえに見通しが良くスピードが出やすい箇所であるが、歩道が無く児童が危険に晒されている。本事業は未歩道区間に歩道を整備し、通学路の安全を確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律	
	関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	小川村立小川小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:678台/12h(H27センサス)、現況歩行者交通量:15人/12h、現況自転車交通量:4台/12h				
	着手年度	2022年度(R4)	事業期間	4年間		事業費(千円)
完成年度(見込み)	2025年度(R7)	費用対効果	-		財源内訳(千円)	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=300m W=2.0m			90,000	49,500	40,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される				
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制				
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:15人・人/12h(地元聞取りによる)(小川村立小川小学校通学路) ○自転車交通量:4台/12h(H27センサス) ○目的地までの距離:小川小学校L=480m				評価 B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:長野市通学路安全プログラム、信州みちビジョン「施策 I-(3)」 ○通学路等の指定:小川村立小川小学校				評価 A
	効率性	○事業期間4年(R4～R7)				評価 A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生 1件(H28～R2) ○現況の歩道幅員:歩道なし				評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている				評価 A
		○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価 7-1)				
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
	位置図	平面図
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	
	現状写真	標準横断面
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)信濃信州新線は信濃町から信州新町へ至る重要な交通の要衝であり、(国)406号～(主)長野大町線を結ぶ重要な路線である。当該箇所は鶴牧田団地から小川小学校への通学路となっているが、勾配が急なうえに見通しが良くスピードが出やすい箇所であるが、歩道が無く児童が危険に晒されている。本事業は未歩道区間に歩道を整備し、通学路の安全を確保したい。
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	R03 県議会議員現地調査時に学校関係者・区長・PTAらが合わせて要望活動
	③ 事業説明等の経緯	R3 県議会議員現地調査実施 R3 通学路合同点検実施等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策 I-(3)」 小川村通学路安全プログラム
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
	⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
	⑦ その他	特になし
事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 37' 02.2" 東経:E 137° 58' 00.5"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備事業			路河川名等	主要地方道 戸隠篠ノ井線				
事業毎の通番	12	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	有旅(うたび)				
事業目的	当箇所は信里小学校までの歩道が未整備であり、通学する児童や通行者は当箇所を迂回している状況である。また、当路線は地域住民の生活道路となっているとともに、長野市篠ノ井と七二会経由で戸隠までを結ぶ路線であり、国道19号の迂回路となる重要幹線である。しかしながら歩道が設置されていないため、歩行者が危険にさらされている。誰もが安心して移動できる道路環境整備として、当箇所を改良し、交通利用者の安全を確保したい。								
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)			事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律				
関連する事業、計画等	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」								
保安対象・範囲	信里小学校への通学生徒ほか								
受益対象・範囲	現況自動車交通量:455台/日(H27センサス)、現況歩行者交通量:28人/12h、現況自転車交通量:0台/12h								
着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年)	費用対効果	—		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=600m W=2.5m			110,000	60,500		49,500	0	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される							
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制							
評価の視点	必要性	○現況歩行者交通量:28台・人/日(27センサス)(信里小学校通学路関連) ○自転車交通量:0台/日(H27センサス) ○目的地からの距離:信里小学校L=500m						評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:長野市通学路安全プログラム、信州みちビジョン「施策I-(3)」 ○通学路等の指定:信里小学校						評価	A
	効率性	○事業期間:4年間(R4~R7)						評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数:人or自転車×自動車事故発生1件(H30~R2) ○現況の歩道幅員:なし						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:再評価7-1「早期事業完了要望」						評価	A
所管課の意見	小学生の通学路であり、長野市の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があるため、事業着手が妥当であると判断する。						採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手				

位置図

長野市 有旅

平面図

至 国道19号

信里小学校

全体計画 L=600m

標準横断面図

2.5 6.0

状況写真

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は信里小学校までの歩道が未整備であり、通学する児童や通行者は当箇所を迂回している状況である。また、当路線は地域住民の生活道路となっているとともに、長野市篠ノ井と七二会経由で戸隠までを結ぶ路線であり、国道19号の迂回路となる重要幹線である。しかしながら歩道が設置されていないため、歩行者が危険にさらされているため、当箇所を改良し、交通利用者の安全を確保したい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	学校・PTA等より要望 県道改良促進期成同盟会あり 毎年同盟会現地調査要望あり
③事業説明等の経緯	R3 通学路合同点検実施 R3 県道改良期成同盟会現地調査実施 R3 同盟会による要望書の提出等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策I-(3)」 長野市通学路安全プログラム
⑤地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

事後・再評価からのフィードバック	子供の安全確保のため、早期の事業完了を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 35' 9.88" 東経: E 138° 06' 21.81"
------------------	------------------------	-------------	--

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	国道403号		
事業毎の通番		13	市町村名	山ノ内町	箇所名(ふりがな)	下須賀川	
事業概要	事業目的	国道403号は、新潟市から松本市を結ぶ道路である。また、当地区は冬季間には観光道路となり車両の往来が多くなる。小中学校等の公共施設も集積している。しかしながら、当該箇所は歩道が未整備であり、小中学生をはじめ多くの歩行者が危険にさらされている。また、令和3年度に行った通学路緊急合同点検において、要対策箇所に位置づけられている箇所でもあり、早急な整備が必要であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4「生命・生活リスクの軽減」(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	交通安全施設等整備事業に関する法律		
	関連する事業、計画等	山ノ内町都市計画マスタープラン					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	山ノ内西小学校への通学生徒ほか 現況自動車交通量:3,990台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:12台・人/日					
	着手年度	2022年度(令和4年)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2024年度(令和6年)	費用対効果	—		国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=260m W=2.5m			60,000	33,000	27,000 0	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される					
	間接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故抑制					
評価の視点	必要性	○現況自転車歩行者交通量:12台・人/日 ○目的地までの距離:バス停L=160m(小学校行き)				評価 B	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:山ノ内町都市計画マスタープラン ○通学路等の指定:山ノ内西小学校				評価 A	
	効率性	○事業期間:3年間(R4~R6)				評価 A	
	緊急性	○近年の交通事故件数:人×自動車事故発生1件(地元聞き取り)(H28~R2) ○現況の歩道無し				評価 A	
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:積極的な取組みがある ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価7-6-5地元調整				評価 A	
所管課の意見	小学生の通学路であり、山ノ内町の通学路安全プログラムにも位置付けられているが、歩道が未整備で危険な状況であるため、早期に歩道整備を実施し、安全な歩行空間を確保する必要があり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況 ○	総合評価 A	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

位置図

山ノ内町 下須賀川

状況写真

計画横断面図

平面図

全体計画 L=260m W=2.5m

北小学校(旧)
山ノ内町保育園
スクールバス停留所

3,990台/日

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、新潟市と松本市を結ぶ路線であり、当地区は冬季間には観光道路となり交通量が多い。当該箇所は、山ノ内西小学校の通学路であるため、歩道の整備を行うものである。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	R3 山ノ内町役場を通じて地元より要望が上がっている。
③事業説明等の経緯	R3 通学路合同点検実施等の機会毎に計画区間や構造、事業予定等の説明を実施。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	山ノ内町都市計画マスタープラン しあわせ信州創造プラン2.0 4-4 信州みちビジョン「施策1-(3)」 山ノ内町通学路安全プログラム
地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当該事業は、歩道の設置事業で、自然環境や景観に与える負荷は少なく、歩道を設置することにより歩行者の安全が確保され、地域の生活環境への好影響が期待できる。
人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	歩道の整備により安全で安心な住環境が整備され、人口流出の抑制が期待できる。
⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

子供の安全確保のため、早急の事業完了を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 36° 00' 42.99"

東経: E 138° 43' 31.92"